



**写真は嘘をつかないが「歳は気にせず」**

「青い風がそよぎ渡り 若い緑が躍る」は映画・写真甲子園の大黒摩季さんの主題歌『Latitude明日が来るから』の出だしのフレーズである。暑い夏の到来ではあるが、爽やかな風の下、若者が躍動する時期を迎えている。間もなく、写真の町の関連事業であるフェトフェスタ、写真甲子園、高校生国際交流写真フェスが始まる。国内外から多くの方々が来町し、出会いと刺激、交流が展開される。応援すること、作品を見ること、ボランティア参加すること、会って話しをすることなど、多くの町民のみなさまに参加してほしい。

さて、話は変わるが、九州に香春町という町があり、S議員さんと仲間たちが本町を訪問された。70歳から90歳までのシニア世代で、旭岳のお花畑も見てきたとおっしゃる。S議員さんとは大津の研修所で初対面し、名刺交換をして以来、東川町のまちづくりに深いご関心を寄せていただいている。当時の新聞に掲載された記事がありコピーを持参されたが、小職の顔写真が恥ずかしいほど

大きく載っている。「町長さん、若かったですね」「今は昔と随分と変わりましたね」……改めて写真を見ると加齢化していることが良く分かる。毎日、鏡を見ているも自分の変化には気が付かない(いや、気が付いていても気が付かない振りをしているだけか!!)。いつ歳を重ねているか全く分からないが、実際に写真を見ると本当に歳を重ねている。写真は嘘をつかずに、正直に事実を写していたのだ。歩く速度が遅くなり、記憶力が抜け、目がかすむなど、体そのものが加齢化してきている。

九州のシニアの方々はお元気で、共通しておっしゃるのは「私たちはみんな一人暮らしです」ということ。毎日が忙しく楽しいことで時間が足りないよう、強いのは九州男児ばかりではないようだ。彼女たちの元気に接して、写真は嘘をつかないが、案外、自分の歳のことには気にせず過ごすが、元気な源になるのでは、と勝手に思った。

**渦 妹背山婦女庭訓 魂結び (一般書)**

大島真寿美/著 文藝春秋/刊



江戸時代、芝居小屋が立ち並ぶ大坂・道頓堀。儒学者・穂積以貫の次男として生まれた成章(後の半二)は末樂しみな賢い子供だったが、浄瑠璃好きの父に手をひかれて芝居小屋に通い出し、浄瑠璃の魅力に取り付かれる。「本朝廿四孝」や「新版歌祭文」など、現代でも上演される名作を残した半二の生涯をたどりながら、人形浄瑠璃や歌舞伎が作りだす虚実の渦を描く。

**この世界の片隅に (DVD)**

販売元:バンダイナムコアーツ



昭和19年2月。広島から軍港のある呉の北條家に嫁いだ18歳のすずは、戦時下で物資が徐々に不足する不自由さの中、工夫を凝らして食卓をにぎわせ、衣服を作り直し、時には好きな絵を描き、毎日の暮らしを積み重ねていた。しかし翌年、呉は空を埋め尽くすほどの艦載機による空襲にさらされ、すずは大切なものを失ってしまう。そして昭和20年の夏がやってくる…。(129分)

**貸し出し図書 ビデオ紹介**



**せんとぴゅあII ほんの森**

【貸し出し】  
図書、紙芝居、雑誌は一人合計10点まで(15日間)  
DVDは一人2本まで(8日間)  
★本、DVDの蔵書リクエストもお受けしています

**マザーグースのうた (児童書)**

蜂岡 耳/文 ポプラ社/刊



日本で「わらべうた」が歌いつがれているように、英語を話す国の人たちが子どものころから親しんでいる「マザーグースのうた」。おもしろい歌、こわい歌、しみりした気もちになる歌など、たくさんの歌の中からはじめて「マザーグース」に出会う子どもたちのために選りすぐった49編を、フレッシュな日本語と、ゆかいなイラストでお届けします。巻末に原文も収録。